



謙澄を巡る人々

題字
棚田看山

その5

末松謙澄は、明治37年2月、日露戦争開戦と同時に日英同盟の強化、黄禍論の再発防止など対日世論友好化という重要な使命を帯びてヨーロッパへ派遣された。

謙澄はその途中アメリカに立ち寄って、セオドア・ルーズベルト大統領、ジョン・ヘイ国務長官、そして、旧制豊津中学（現育徳館中学・高校）出身の内田定槌さだつち（ニューヨーク総領事らと会談し、ポーツマス講和会議へ至るまでの外交戦略について協議した）。

内田定槌は幕末の元治2年1月17日、小倉藩士内田基蔵の長男として小倉城下に生まれた。謙澄より10歳年下である。小倉藩の第二次長州征討戦（豊長戦争）での敗退により、定槌3歳

前後に一家は現在の田川郡香春町採銅所へ移住する。



定槌は明治10年代半ばに草創期の豊津中学に入学してその後、ア

内田定槌

～旧制豊津中学出身の外交官～

アメリカ人教師から英語を学ぶため東京英和学校（後の青山学院）へ転校。明治22年東京帝国大学卒業後、外交官となった。上海副領事、京城（現ソウル）領事からニューヨーク総領事を経てブラジル公使、スウェーデン公使、トルコ大使を歴任した。「在勤外地に於ける主要事件の回顧」（昭和14年）などの著作がある。

スウェーデン公使時代の明治45年、日本が初めて参加したストックホルムオリンピック大会が開催され、定槌は日本選手団を強力にサポートした。写真（横浜山手西洋館外交官の家所蔵）はこの時に現地で撮影されたもので、前列右から定槌、選手団長嘉納治五郎、マラソン選手金栗四三かぬくりしやう、定槌夫人内田陽子である。定槌は嘉納や金栗とともにNHK大河ドラマ「いだてん」に実名で登場し、日本のオリンピック史における功績が改めて注目されることとなった。

アメリカ人建築家ジェームズ・M・ガーディナーが設計した定槌の邸宅は、横浜市の山手イタリア山庭園に移築され、重要文化財「外交官の家」として一般公開されている。

（文化人末松謙澄を考える会 小正路淑泰）